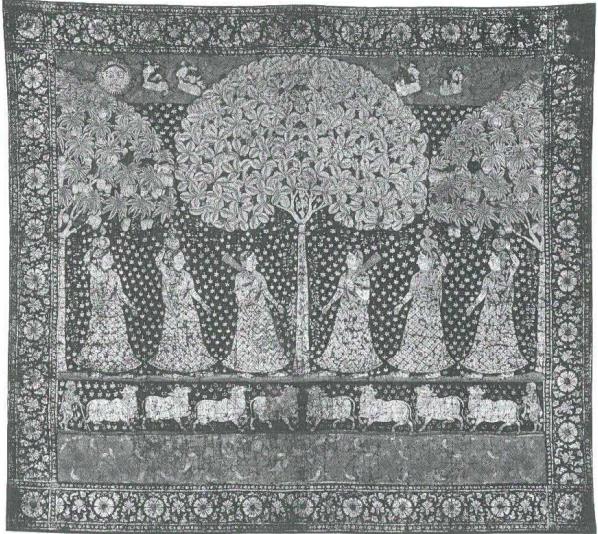


# 平山郁夫シルクロード美術館 ニュース

No.  
03

平成18年  
2月1日発行

収蔵品の中から、王朝文化の煌めきを伝えるササン朝ペルシアの銀器およびガラス器、シルクロード文化の象徴ともいえる連珠円文を織りだした中央アジア文化の粹ソグドの錦(断片)、唐代の西域趣味、宮中文化を彷彿とさせる俑や染織品等を中心に展示し、正倉院に伝来またはその源流となつた西方の文化を展観します。詳細は次号をご覧下さい。



クリシュナ図描金更紗 18世紀 インド

## 「煌めく布 ～金更紗と金糸織～」展

2006年3月11日(土)～6月26日(月)

【会場】 当館 本館および別館  
【開館時間】 10:00～17:00(入館は16:30まで)  
【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館)  
7～9月は無休  
10月からは毎週火曜日が  
休館となります。但し、  
祝日の場合は開館しています。  
【入館料】 一般1,000円、高校生・大学生700円、  
小・中学生500円(毎週火曜日は無料)、  
障害者 無料(介護者は1名まで500円)  
※70歳以上は100円割引  
※団体(20名以上)は各100円割引

【主催】 (財)平山郁夫シルクロード美術館  
山梨日日新聞社・山梨放送・絲綢社  
朝日新聞社  
【共催】 山梨県・山梨県教育委員会、  
北杜市・韮崎市・南アルプス市、  
甲斐市・小淵沢町、  
NHK甲府放送局、テレビ山梨、  
エフエム富士・平山郁夫美術館  
キリンビール、ANA

【協賛】



国王騎馬虎狩文皿 3～4世紀 アフガニスタンまたはトルクメンistan

## 「シルクロードのきらめき ～正倉院文化の 源流を訪ねて～」展

二〇〇六年七月一日(土)～十二月十七日(日)

本館一階及び別館

平山コレクションの染織品は約三千点に及びます。これまでにカシミールと毛織錦、インドネシアの金更紗、世界の絹、カンボジアの絞紬などが展示、公開されています。

今回は、「煌めく布」と題し、さまざまな技法によりかがやきが施された布ばかりを集めました。ロウケツに金箔を用いた金更紗の腰衣、緯紬の周囲を金糸の下さいます。

浮織りでぶちどつた肩掛け、小さなミラーを一つ二つ糸で開み止めつけた婚礼の晴れ着など約六〇点を展示します。中でも、インドの寺院用掛け布(ビチャヴァイ)は二〇〇年以上を経たとは思えぬ輝きを今なお保つ圧巻のものです。

かつては王侯貴族の限られた人々のみ許された煌めく布の装飾をお楽しみ下さい。

## 蒐集日和(3)

### 輝く布に魅せられて

館長  
平山美知子

これがシルクロードという数千年來、文明の往き交つた道の美術品との縁を深めていくことになったのです。はじめは平山の写生のためというので、ガンダーラのような彫刻が多くつたのですが、シルクロードは絹の道なので、私たちの身近にある絹や衣類などに注目しなければと思うようになりました。

平山は日本画家ですから、掛軸の表装に使われる印金更紗の貴重さはよく聞いておりました。たまたま

私はただの主婦でしたが、画家である平山の取材旅行に同行するようになり、次第にものの見方を教わつたように思います。

旅行中、平山は絵になる風景、人物、ひきつけられるものは何でも座り込んで写生を始めます。時間がないうときはないなりに印象をすばやくとらえていますが、平山としてはじつくりと時間をかけて描いてみたいという思いは強かつたと思います。そのような平山の気持ちを察するよう、次第にいろいろな方がガンダーラの仏像や工芸品などを持つてくるようになりました。

また、生涯に一度と思って、旅立つたアフガニスタン、中央アジアの旅行がきっかけとなり、多くの先生方に導かれるように旅は続いていき、そ

らく、多くの染色や織物を見せていただき、入手することもできました。

その骨董屋は日本にももつてくるようになり、私たちのコレクションは増えていたのです。印金更紗はインドネシアのスマトラ島、パレンバンで多く作られましたが、現代はその技法は印度より伝わったもので、インドには素晴らしいものがたくさんあります。

結婚式などの祝いの儀式のときに、人はできるだけ豪華に見せるため、女性は金箔を張り付けた印金更紗や、薄い金箔を巻き付けた金糸を使つた刺繡が喜ばれたために職人は競つてこのようなモノを作つていました。それらの技法は印度より伝わったもので、インドには素晴らしいものがたくさんあります。

私たちに伝わつてくるのです。何かの祝い事を喜ぶ人々の心が今もなく、多くの染色や織物を見せていました。ただ、入手することもできました。その骨董屋は日本にももつてくるようになり、私たちのコレクションは増えているのです。印金更紗はインドネシアのスマトラ島、パレンバンで多く作られましたが、現代はその技法は印度より伝わったもので、インドには素晴らしいものがたくさんあります。



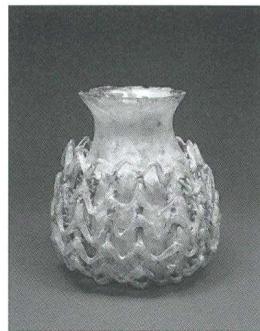
花唐草文様金更紗 18世紀 インド



花鳥獸文様金更紗(儀式用の腰衣)  
19~20世紀 インドネシア

## 「平山郁夫の絵画とアフガニスタンの至宝」

「流出文化財を守れ」展

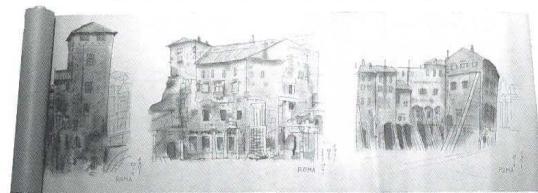


ガラス器 1世紀 アフガニスタン

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第3号

一〇〇五年(平成十七年)七月九日より  
はじまったこの展覧会も、十二月十一日を  
もつて無事閉幕いたしました。およそ二  
万人の方にご来館いただきましたが、こ  
りわけ愛知万博終了後に多くの方がこ  
られました。アフガニスタンはまだまだ平  
和とは言えませんが、国民選挙も行われ、  
平和国家への道を着実に歩みつつあります。  
また、パーミヤンからは新たな壁画発  
見の朗報も届き、関係者、アフガニスタン  
を愛する者たちを勇気づけてくれまし  
た。展示された文化財難民たちが祖国ア  
フガニスタンに帰国する日も遠くはない  
と思われます。一月の東京芸術大学美術  
館、二月の横浜ユーラシア文化館で開か  
れる企画展にあわせて、壁画断片、ゼウス  
の左足が巡回します。

ドへと導くこと  
になります。昨  
秋よりスタート  
したこの展覧会は、  
来年度以降もフ  
ランス編、イタリア、  
ベネチア編など



婦人胸像 2~3世紀 シリア

に三巻ずつ展示  
していく予定で  
おります。二〇  
〇六年の展示内  
容は次号をご覧  
下さい。

## 平山郁夫 欧州写生絵巻 —イタリア・ローマ編—



平山郁夫三十二歳、初めての外国留学  
で半年にわたって描き続けたヨーロッパの  
街・人・遺跡に綴られた絵巻物。このと  
きの体験が、後に平山郁夫をシルクロー

島百貨店で「平山郁夫展」に屏風二件、本  
画五点、素描三十六点を展示。  
一月十八日(三十日まで)日本橋高島屋  
本店、二月一日(七日には京都高島屋に  
て、「平山郁夫シルクロード美術館」展を  
開催。屏風二件、素描三点、仏像、形象土  
器、銀器、ガラス器、陶器、俑、染織品な  
どコレクションの名品約百点を展示し、多  
くの方々に当館所蔵コレクションのすば  
らしさを知りていただこうことができました。

当館では昨年に引き続き、総合学習の  
場として小中学生に美術館を開放する  
活動を行いました。

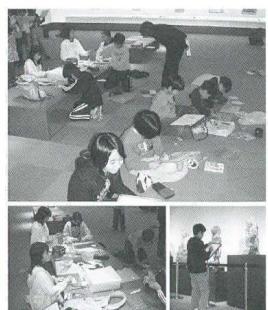
今年度は泉小学校の六年生三十六人  
が十月十八日に来館。児童たちは展示品  
やシルクロードについて学芸員から解説  
を受け、事前学習で得た知識をさらに深  
めた上で、館内での創作活動に取りかか  
りました。切絵で砂漠のキャラバンを再  
現する子や複雑な仏像を細密に描寫す  
る子もいれば、中には破壊されたパーミヤ  
ンの大石仏から想像を広げて詩を作る  
子も。皆自由な発想でシルクロードの世  
界を体感し、各自のテーマを掘り下げて  
いました。

仕上がった作品はどれも力作揃いでし  
た。六年生は後日、校内の学習発表会で  
その成果を発表し、全学年にこの体験で  
感じたり考えたりについて披露しました。

## 「ミキモト」展 「早稲田」展

チベットに小学校を建てる資金を集め

たいと立ち上がった早稲田大学ボランティアのため、八月十六日より一週間、素描二十点と絵巻物、巻を貸出・展示。また、十月十三日より二週間、東京銀座のミキモトホール(本店)でシルクロードの装身具及び装身具の見られるコレクション七十点を展示しました。



創作活動の様子

## 小中学生のための総合学習を振り返って

## 賛助会のご案内

賛助会は美術館の活動を支援するとともに会員の皆さまの交流をはかることを目的として発足いたしました。皆さまのご入会を心よりお待ち申し上げております。  
なお、皆さまから寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持・管理などに使用されます。

### 1)年会費

個人会員	1口	10,000円
家族会員	1口	15,000円
法人会員	1口	100,000円

年会費には消費税が含まれます。口数に制限はありません。家族会員は2名様までとします。ただし、会費は寄付免税の対象となっておりませんので、あらかじめご承知おき下さい。

### 2)会員募集の期間

会員の申し込みは随时受け付けております。有効期限は毎年6月末日までとなります。なお4月～6月のご入会の方は翌年6月まで有効です。



### 3)会員の特典

- 会員証を発行します。
- ・個人会員 1枚 ・家族会員 2枚 ・法人会員 5枚
- 入館料は無料となります。
- 展覧会図録がお受け取りになります。
- 美術館ニュースをお届けします。
- ・個人会員 1部 ・家族会員 1部 ・法人会員 5部
- 特別内覧会にご招待します。
- 当館主催の講演会、講座へ優先的にご案内します。
- ミュージアムショップにて会員割引が受けられます。

### 4)申込方法

入会をご希望の方は申込用紙に必要事項をご記入のうえ、美術館または事務局にご郵送いただき、所定の銀行または郵便局の口座に会費をお振込みください。直接お申し込みいただくこともできます。申込用紙は美術館受付に置いてあります。直接お請求していただいても結構です。詳しく述べは美術館または事務局にお問い合わせください。



## ミュージアム グッズの ごあんない

「皆さまからご要望がありました  
『黒地に金のラクダ』が  
いよいよ登場します。  
よろしくお願ひいたします。」

## ■2005年度下半期 行事・来館者等

- 4/11 資料調査: 斎藤昌子教授他6名(共立女子大)  
「第一回ソグド錦調査」(第二回7/19; 第三回8/31: 雜倉)
- 7/23 講演会: 山内和也(東京文化財研究所)「アフガニスタンの遺跡と現状」  
(山梨本館)
- 8/16 貸出展覧会: 「平山郁夫素描・歴史の道展」  
(主催: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター、於: リーガロイヤルホテル東京: ~8/23)
- 8/18 資料調査: 小笠原小枝教授(日本女子大)  
当館「煌めく布～金更紗と金糸織～」第一回予備調査のため米館。  
(第二回9/12: 雜倉)
- 8/20 講演会: 上谷遙子元上智大学教授「アフガニスタンの美術と文化」  
(山梨本館)
- 9/23 コンサート: 「シルクロードの歌姫 オクサーナ・ステパニュックを囲むタベ」  
歌: オクサーナ・ステパニュック(山梨本館)
- 10/5 企画展示: 「欧洲写生絵巻」開催 (~12/11) (山梨本館)
- 10/13 展覧会: 「平山郁夫シルクロード展～シルクロードの装身具」  
(於: 銀座キヨモチ本店~10/25)
- 12/11 コンサート: 「クリスマス・コンサート」歌: オクサーナ・ステパニュック(山梨本館)
- 12/9 駐日中華人民共和国大使ご夫妻来訪(雑倉)
- 12/14 遠山敦子元文部科学大臣来訪(雑倉)
- 12/18 貸出展示: 「葉山展示」終了(於: 湘南国際村センター: 葉山)

## ■「オクサーナ・ステパニュック・コンサート」報告

シルクロードの歌姫オクサーナ・ステパニュックさんによるコンサートが、去る2005年9月23日、美術館の本館展示室内で開催されました。ステパニュックさんはウクライナ共和国の出身で、數々の国際コンクールで受賞し、バチカンではローマ法王の前で演奏した経験を持つ実力者。ウクライナの民族楽器ヴァンドゥーラの深く繊細な音色を自在に奏でながら、朗々と響く素晴らしい歌声を聴かせてくれました。流暢な日本語で楽しいおしゃべりを交えながらプログラムは進行し、平山画伯のシルクロードの作品の前で甘美なひとときを繰り広げました。また展覧会最終日の12月11日には、もう一度聴きたいというお客様からの熱烈なリクエストに応え、早速アンコールコンサートを開催。この日ステパニュックさんは平山画伯のために作ったオリジナル曲をご本人の前で初披露なさいました。哀愁に満ちた美しいその調べに、集まった100人以上の観客から割れんばかりの拍手が送られ、何曲かのアンコールの後、大盛況のうちに閉幕しました。



## ■賛助会の現況

平成17年7月に賛助会へのご参加を呼びかけましたところ、個人会員50人、家族会員23組、法人会員8団体('06.1/31現在)のご参加を得ました。会費は1,944,260円(郵便局入会手数料を除く)に達しました。会費は研究助成、美術館ニュースの発行、賛助会の運営などの費用にあてていく方針です。皆さまのご協力心より御礼申し上げます。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ■本館の増築計画

美術館本館は現在、1,094m<sup>2</sup>の床面積をもっていますが、より多くのお客様をお迎えするために増築し、併せて施設機能の改善を行うことになりました。すでに用地を取得し、建物の設計も着々と進んでいます。工事は平成19年5月に完成する予定です。御期待下さい。



平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第3号 平成18年2月1日発行  
発行/財団法人平山郁夫シルクロード美術館  
〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225  
URL http://www.silkroad-museum.jp